

= 公園の植物 =

## オトギトノウ (オトギトノウ科 オトギトノウ属)

日本全土の山野の日当たりの良い草地に生え、夏に2cmほどの黄色い花を咲かせます。古くから薬草として止血、切り傷、打撲などに用いられてきました。乾燥させたものを小連翹（ショウレンギョウ）と称し生薬として使われています。

名前（弟切草）の由来は、この薬を原料とした秘薬の秘密を洩らした弟を兄が怒って切り殺したという平安時代の伝説からと言われています。

